

教育研究上の目的

社会情報デザイン学部は、建学の精神に基づき、多様化・複雑化する社会に対する理解や知識を修得するとともに、生涯にわたって自己研鑽していく態度を修得し、社会に対する自発的な関心のもとに課題を発見し、他者を尊重し互いを認め合いながら協働し、情報を活用しながらよりよい社会を目指した創造、提案ができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

社会情報デザイン学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 多様化・複雑化する社会に対する知識を有し、よりよい社会を実現していくうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3. 自発的な関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら、他者と協働してよりよい社会を目指した創造、提案をすることができる

科目区分	授業科目	単位数			授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)																	
		必修	選択必修	選択					把握・資料探索	資料読解・問題解決への模索・省察	自己課題発見・解決の課題追究	資料収集・資料分析	対話的検討・自力解決・協働的学習	協働的探究・協働的解決(の得たことへの模索)	分析的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の抽出・解決策の検討・協働的実践的解決								
外国語目的別科目	実践英語 a			1	演習	前	2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	実践英語 b			1	演習	後	2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	アドバンスト・リスニング			2	講義	後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	アドバンスト・リーディング			2	講義	前・後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	アドバンスト・ライティング			2	講義	前・後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	ビジネス英語			2	講義	後	2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	映画・ドラマ英語			2	講義	前	2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	メディア英語			2	講義	前	2・3・4		◎	◎		◎	◎		◎											
	TOEIC対策講座			2	講義	後	1・2・3・4		◎	◎																
	中国語試験対策講座			2	講義	前	1・2・3・4															◎	◎	◎		
日本語検定対策講座			2	講義	前・後	1・2・3・4															◎	◎	◎			
日本語(非母語者向)	総合日本語 I a			1	演習	前	1	※日本語を母国語としない者は、「総合日本語 I a」「総合日本語 I b」を履修すること。ただし、JLPTN1を取得している(なければ模擬試験)、かつ、教員が実施する課題をもって話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	◎	◎		◎	◎													
	総合日本語 I b			1	演習	後	1		◎	◎		◎	◎													
	総合日本語 II a			1	演習	前	2		◎	◎		◎	◎													
	総合日本語 II b			1	演習	後	2		◎	◎		◎	◎													
	総合日本語 III a			1	演習	前	3・4		◎	◎		◎	◎													
	総合日本語 III b			1	演習	後	3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語表現技術 I			1	演習	前	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語表現技術 II			1	演習	後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語表現技術 III			1	演習	前	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語表現技術 IV			1	演習	後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語研究 A (時事 I)			1	演習	前	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語研究 B (時事 II)			1	演習	前	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語研究 C (ビジネス I)			1	演習	前	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語研究 D (ビジネス II)			1	演習	後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
	日本語研究 E (医療・福祉専門)			1	演習	後	1・2・3・4		◎	◎		◎	◎													
日本語研究 F (人文科学)			1	演習	後	1・2・3・4	◎	◎		◎	◎															
日本語能力試験対策講座 I			1	演習	前	1・2・3・4															◎	◎	◎			
日本語能力試験対策講座 II			1	演習	後	1・2・3・4															◎	◎	◎			
日本語集中講座			1	演習	前	1・2・3・4															◎	◎	◎			
キャリア教育	キャリアデザイン入門	2			講義	後	2	8科目15単位の中から2単位以上選択必修		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	キャリアロールモデル研究	2			講義	後	2																			
	企業に学ぶキャリアデザイン	2			講義	前	2																			
	プロアクティブ人材育成	2			講義	後	2																			
	キャリアサポート演習	2			演習	通	3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	キャリア基礎力 I	2			講義	前	2・3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	キャリア基礎力 II	2			講義	後	2・3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	インターンシップ短期	1			実習	前・後	1・2・3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
インターンシップ長期	2			実習	前・後	1・2・3		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			

- I 学修
- II 資格取得
- III 人間生活
- IV 教育人文
- V デザイン学部
- VI 教職課程
- VII 諸課程
- VIII 単位認定
- IX 他大学との単位互換
- X 大学院
- XI 施設
- XII Q & A
- XIII 教務関連
- ハンドブック

教育研究上の目的

社会情報デザイン学科は、これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有するとともに、自らの興味・関心に基づき課題を発見し、その課題解決に向けて多様な他者の価値観を理解、尊重しながら協働し、柔軟な発想力、企画力をもって、プロジェクトを完遂することができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有し、よりよい社会を目指すうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3. 自らの興味・関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら柔軟な発想でアイデアを創造、提案し、他者と協働しながらプロジェクトを完遂することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識、専門知識を有している。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を有している。
3. 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を有している。
2. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を有している。
3. 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1. これからの社会で何が必要であるかを見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を有している。
2. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性や働きかける力を有している。
3. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精選し、系統的かつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」「専門ユニット」「演習・卒業研究」の3つの領域区分を設け授業科目を配置している。

基礎ユニットでは、これからの社会において必要となる基礎的な知識や力を養うとともに、生涯にわたって自己実現を成し遂げるうえで必要となる基本的な姿勢を育むことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の3つのユニットを設定する。

- ・「現代社会理解」では、これからの社会において必要となる社会やビジネスに関する基本的な知識やスキルを広く養うことを目的とし、「現代社会の基礎理解」「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」を必修科目とする。
- ・「思考・表現」では、グループワークなどを通じて、他者と協働し、チームで新しい価値を生み出すためのスキルや姿勢を育むことを目的とし、「発想法入門」「課題探究ワークショップⅠ」を必修科目とする。
- ・「情報活用」では、コンピューターを用いた演習などを通じて、これからの社会において必要となる情報の収集・活用に関する基本的な知識やスキルを養うことを目的とし、「社会情報リテラシー」「調査・統計リテラシー」を必修科目とする。

専門ユニットでは、自らの興味関心に基づいてより高度な専門知識を身につけるとともに、それをさまざまな場面で活用することで、社会課題の発見・解決を志向する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の5つのユニットを設定する。

- ・「経営・マーケティング」では、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を解決するために必要となるマネジメントやマーケティング能力を養うことを目的とする。
- ・「社会デザイン」では、社会課題を発見しその解決の道筋をつけるためのより高度な知識と調査スキル、そして実践力を養うことを目的とする。
- ・「データサイエンス」では、さまざまなデータを収集・分析・活用する方法を習得することを目的とする。
- ・「情報システム」では、より高度なプログラムを作成するための知識とスキルを養うことを目的とする。
- ・「メディアデザイン」では、色彩や音響、映像などのデザインの技法を習得することを目的とする。

演習・卒業研究では、習得してきた知識・スキルを統合し活用する能力を養い、主体的に課題探究に取り組み、その成果を発表する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすため、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目とする。

教育の実施には、それぞれの科目の内容に合った授業形態（講義、演習、実習）を用いる。他者と協働する力を育成し、主体的な学びの姿勢を高めるために、教員と学生間の双方向型授業、グループディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたPBL（課題解決型授業）を導入する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

基礎ユニット

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。
3. 情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. 身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。
6. 身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7. 社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。
8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。
9. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

専門ユニット

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
3. 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。
6. 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7. これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。
8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
9. 他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

演習・卒業研究

1. 卒業研究を行ううえで必要となる専門知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者との対話から新しい知見を引き出すことができる力を育成する。
3. 研究を進めていくために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. 卒業研究を行ううえで必要となる論理的・創造的思考を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観を理解したうえで、自らの主張を論理的に相手に伝える力を身につけさせる。
6. 個々の研究成果を客観的に表現する力を身につけさせる。
7. 卒業研究から得られた成果をこれからの社会に還元しようとする姿勢を育成する。
8. 個々の研究を進めていくために、他者と協力し合える力を育成する。
9. 個々の研究テーマに対して主体的に取り組む姿勢を育む。

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	24単位	90単位以上
	選択	66単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目7単位、選択必修科目8単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目24単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目66単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目68単位取得した場合は、2単位分が自由選択科目の単位となる

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分	授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力													
		必修	選択						◎…重要な目的としている	○…主な目的としている	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○				
学部基礎ユニット科目	現代社会の基礎理解	2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	ビジネス入門	2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	現代社会論	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	情報社会とIoT	2		講義	前	1年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	情報社会と法	2		講義	前	1年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	マーケティング入門	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	業界研究	2		講義	後	1年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	社会学概論	2		講義	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	ジェンダー論	2		講義	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	社会福祉論	2		講義	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	生活経済	2		講義	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	消費生活論	2		講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	政治と社会	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	現代社会と人権	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	メディアリテラシー	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
思考・表現	発想法入門	2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	課題探究ワークショップI	2		演習	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	デザインリテラシー	2		演習	前	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	ビジュアルデザイン基礎	2		演習	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	プレゼンテーション基礎	2		演習	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	プレゼンテーション応用	2		演習	後	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	英語実践演習	2		演習	後	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
情報活用	社会情報リテラシー	2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	調査・統計リテラシー	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	データサイエンス概論	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	プログラミング基礎	2		演習	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	文書作成入門	2		演習	後	1年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	データ活用入門	2		演習	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
学部専門ユニット科目	経営戦略論	2		講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	経営組織論	2		講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	マーケティングと商品開発	2		講義	前	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	広告論	2		講義	後	2年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	会計学概論	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	サービス学概論	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	企業論	2		講義	後	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	企業倫理とガバナンス	2		講義	前	3年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	グローバルビジネス	2		講義	前	3年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	デジタル・マーケティング	2		講義	前	3年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	コンテンツビジネス論	2		講義	前	3年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	先端技術とビジネス	2		講義	後	3年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	マーケティングデザイン	2		演習	後	3年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
ビジネスプロジェクト	2		演習	後	3年	×		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	
デザイン実践	現代家族論	2		講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
	異文化コミュニケーション論	2		講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○

科目区分	授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)																		
		必修	選択						社会情報リテラシーに関する基礎・専門知識	論理的・創造的思考と判断力	自己研鑽していく態度	他者を尊重しながら対話する力	他者の価値観を理解することができる態度	積極性や働きかける力	課題発見・解決のための情報収集・活用力	新しいアイデアを提案する力	シフト発想する力	他者と協働しながらプロジェクトを遂行する力									
学部専門ユニット科目	社会デザインユニット	地域コミュニティ論	2	講義	前	2年	○		◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		共生社会論	2	講義	前	2年	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		課題探究ワークショップⅡ	2	演習	前	2年	×				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		マスコミュニケーション論	2	講義	後	2年	×			◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		まちづくり論	2	講義	後	2年	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		SDGs論	2	講義	後	2年	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		質的調査法	2	演習	後	2年	×			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		現代若者・子ども論	2	講義	前	3年	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		アイデンティティ論	2	講義	前	3年	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		公共政策	2	講義	前	3年	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
学部専門ユニット科目	データサイエンスユニット	データの整理・視覚化	2	講義	前	2年	×			◎	○																
		オペレーションズリサーチ	2	講義	後	2年	○			◎	◎																
		データによる予測・判定	2	講義	後	2年	×			◎	○																
		データサイエンス演習Ⅰ	2	演習	前	3年	×			◎	○	◎															
		データによる課題解決	2	講義	前	3年	×			◎	○																
		データサイエンス演習Ⅱ	2	演習	後	3年	×			○	◎																
		学部専門ユニット科目	情報システムユニット	社会データベース基礎	2	演習	前	2年	×			◎															
				Webコーディング	2	演習	前	2年	×			◎	○														
				プログラミング応用	2	演習	前	2年	×			○	◎														
				Python入門	2	演習	後	2年	×			◎	○														
JavaScript入門	2			講義	後	2年	×			◎	○																
オブジェクト指向	2			演習	後	2年	×			◎	◎																
社会データベース応用	2			演習	後	2年	×			◎																	
マクロプログラミング	2			演習	後	2年	×			◎	◎																
C言語基礎	2			演習	後	2年	×			◎	○																
AIとプログラミング	2			講義	前	3年	×			○	◎																
学部専門ユニット科目	メディアデザインユニット	ネットショップ	2	講義	前	3年	×			○	◎											◎					
		C言語応用	2	演習	前	3年	×			○	◎																
		ビジュアルデザイン応用	2	演習	前	2年	×			○	◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		映像デザイン	2	演習	前	2年	×			○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		サウンドデザイン	2	演習	前	2年	×			○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		メディア文化論	2	講義	後	2年	○			○	◎																
		Webデザイン	2	演習	後	2年	×			◎	◎																
		音声コンテンツデザイン	2	演習	後	2年	×				◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		色彩論	2	演習	後	2年	×			○	◎			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		ポピュラー音楽論	2	講義	前	3年	○			○	◎			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
学部専門ユニット科目	総合演習	現代アート論	2	講義	前	3年	×			○	◎			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
		拡張・複合現実	2	講義	前	3年	×			○	◎			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
		課題探究ワークショップⅢ	2	演習	後	3年	×					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
		演習・卒業研究	演習Ⅰ	2	演習	前	3年	×			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			演習Ⅱ	2	演習	後	3年	×			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			卒業研究	4	演習	通	4年	×			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

【「卒業研究」の履修について】

註1：1・2年次終了時に次の条件①～③を満たす場合、「演習Ⅰ」の3年次前期からの履修を認める。

- ① 修得単位数が62単位以上
- ② 「入門ゼミナール」（共通科目）「はじめてのデータサイエンス」（共通科目）「現代社会の基礎理解」「発想法入門」をすべて修得していること。
- ③ 学科必修科目（「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」「課題探求ワークショップⅠ」「社会情報リテラシー」「調査統計リテラシー」のうち5科目以上を修得していること。

註2：「卒業研究」を履修するには、原則として「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」を修得していること。

VI

教職課程

教職課程	135
------------	-----

【1】教職課程の概要

「教員になる」ためには、教育職員免許状が必要です。教育職員免許状は、各都道府県教育委員会が発行するものです。その取得のためには、大学において教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける必要があります。

教職課程は、教員として職業的役割を果たす者を養成するものであり、教員としての使命感をもち、実践的指導力を身につけるなどして、学校組織の一員として即戦力となることが期待されています。同時に幅広い教養を修めるなど、社会人基礎力を高めていく必要もあります。

また、教職課程を履修し教育職員免許状を得れば自動的に教員になれるわけではありません。公立学校の場合は教育職員採用選考、私立学校の場合は独自の選考試験に合格する必要があります。

この試験は、小手先の受験技術だけで対応できるものではなく、大学での学修が重要視され、特に教育現場での実情に即した実践的な指導方法等を総合的に身につける必要があります。そのためにも、大学での学びがより充実したものになるよう教職演習や学校インターンシップ等への参加に努めることが大切です。

【2】履修上の留意点・注意事項

詳細の対応の仕方については、適時、教職課程センターから連絡します。

- ①教職課程の履修希望者は、4月に行われるガイダンスで教職課程の説明を受け、1年次前期に開講される「教育の基礎的理解に関する科目」の第1回目の授業に必ず出席してください。教職課程の概要、履修の方法・手続きの概要などを説明します。ガイダンス受講後、履修科目の履修登録を行ってください。また、年度途中から教職課程の履修を希望する学生又は取得を辞退する学生は、教職課程センターに相談してください。
- ②各学科の教育課程で指定されている必修・選択科目区分と教職課程で指定されている科目区分が異なる場合があります。前者は卒業要件を満たすもの、後者は教職課程の認定要件を満たすもの、となります。教職課程履修希望者は、どちらも充足するように履修してください。
- ③編入生等で既に教育職員免許状を取得している学生は、必要単位の検討を行うため必ず個別の相談、指導を受けてください。
- ④教職課程には、教育実習等、介護等体験の学外実習等があります。学外実習等は、2～4年次に行います。そのための準備・手続きは2年次から開始します。
- ⑤文部科学省の通達により学外実習等を行う場合には、麻疹等に対する抗体確認を求める場合があります。
- ⑥4年次の後期に教職課程の総仕上げとして行われる必修科目「教職実践演習」では「教職履修カルテ」を活用します。「教職実践演習」を履修する際に必要となる大切な履修記録で、卒業までの各学年次の自己目標と自己評価を記録していきます。教員との面談にも活用していきます。「教職履修カルテ」が授業開始までに整わない場合は、「教職実践演習」を履修することができません。別途、ご案内するマニュアルを参照し、「教職履修カルテ」を作成してください。

【3】複数免許状を取得する際の留意点・注意事項

- ①複数の免許状の取得を希望する学生は、履修や学外実習において注意が必要なため教職課程センターに事前に相談してください。
- ②所属学科以外で、取得可能な免許状の取得を希望する場合は、所定の手続きが必要になりますので、教職課程センターに事前に相談、指導を受けてください。
- ③学科専門科目を教職課程の科目としている場合、他学科の学生は総合教育システム「UNIVERSAL PASSPORT」から履修登録できない設定になっていることがあります。その場合は教務課に履修届を提出してください。
- ④教職課程科目の履修開始時期の遅れや、必要な単位が取得できていない場合は、卒業までに免許状取得が困難な場合があります。